

### ●基本的にはメスよりオスの方が成績が良い

前回、芝競走においてメスの成績が良くなってきていることを述べたが、基本的にはオス・セン馬(オス)の成績の方がよい。この成績の大部分は、メスの負担重量がオスよりも軽い条件下のものである。実際にどれくらいの差になるか測定することはできないが、一般に負担重量は軽い方が速く走れると考えられ、負担重量が1kg違うとゴールでは1馬身の差が付くともいわれる。それでは、負担重量の点で有利なはずであるメスの成績は、なぜオスに劣るのだろうか。

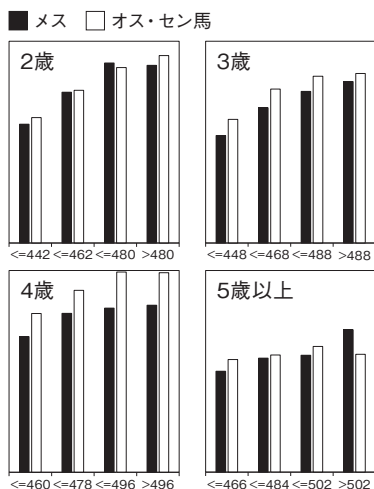
### ●同じくらいの大さの馬の性別による走能力の差

まず、筋肉の質については、ヒトでもウマでも性差はなく同一と考えられる。しかし、体が大きいオスでは、筋肉量も多く、ストライドの長さも長くなるので速く走れると想像される。それならば、体の大きさが同じくらいの馬では、性別による走能力に差はなくなるのではないだろうか。そこで、出走時の体重により4つのグループに分けて、体重が同程度のオスとメスの競走成績を平地競走の複勝率(2011-2020年)により比較した。この際、年齢が高くなると馬体重は増えて走速度も速くなること、馬場により走り方が違うため性別による競走成績への影響も違うと考えられることから、比較は年齢別、馬場別に行った。

その結果、芝競走では、体重が同じくらいの馬を比較した場合、2歳時には複勝率にオスとメスで大きな差は見られなかった(図)。この時期は、ヒトと同じようにメスの方が成熟が早く進むため性別による走能力の差が小さい可能性がある。また、負担重量がオスとメスで同じである期間も含まれ、体重が同じくらいであればオスとメスの走能力は拮抗していると考えられる。しかし、3、4歳になると、複勝率はすべての体重グループでオスの方が高くなった(図)。3歳以降に成熟が進んでくると性ホルモンの影響をより大きく受けるようになり、ヒトと同じよ

うに、オスではメスよりも筋肉が多く付き、メスではオスよりも脂肪が多く付くようになると推察される。また、以前述べたように年齢による体重や走速度の増加の様子を見ると、4歳の秋頃には体や走能力の成熟は完了すると考えられることから、3歳から成熟の完了する4歳では体重が同じであったとしても、オスの方がメスよりも競走成績が良くなったのではないだろうか。しかし、5歳以上では、体重が同じくらいだとメスの複勝率はオスに近づき、最も体重の重いグループでは、オスよりもメスが高くなって(図)。これは、メスの方が競走馬として残るための条件が厳しく、成績の良い馬しか残れないため、成績がオスに近づくのではないかと考えられる。

一方、ダート競走では、年齢、体重に関係なくオスの複勝率が高かった。ダート馬場では、芝馬場と異なり走るのにパワーが必要だといわれている。そのため、同じくらいの体重であったとしても、基本的にはメスよりも筋肉が多く、パワーがあるとされるオスに有利に働いているのかもしれない。



縦軸:複勝率(%),横軸:体重グループ(軽→重)(kg)

▲図 芝競走における体重グループごとの年齢別、性別複勝率(2011-2020年)